

第2章 米子市の現状と課題



＜米子城跡＞

2－1：米子市の環境情勢

2－2：第1次米子市環境基本計画の総括

2－3：米子市の環境に関する市民アンケート調査の結果

2－4：米子市の環境課題

2-1 米子市の環境情勢

○本市においては、平成17年（2005年）に、環境の保全及び快適な環境を創造するため、市民、事業者及び行政の役割分担や連携により、健康で文化的な生活を営むことができる環境を確保し、これを確実に将来の世代に引き継ぐことを目的とする「米子市環境基本条例」を制定しました。また、市民の健康の保護及び快適な生活環境の確保を図ることを目的とする「米子市快適な生活環境の確保に関する条例」を議員提案により制定し、公共施設等に対する落書き及び放置自動車の対策を行っています。

平成19年（2007年）3月には、市民、事業者、土地所有者及び行政が協働して環境の美化を図り、住みよいまちづくりを推進することを目的とする「米子市みんなできれいな住みよいまちづくり条例」を制定し、空き缶等の投棄の禁止、飼い犬等のふんの放置対策を行っています。また、同条例に基づき、加茂川河口周辺環境美化推進区域の指定（平成21年（2009年）10月）、上淀廃寺跡・伯耆古代の丘公園周辺環境美化推進区域の指定（平成24年（2012年）10月）及び米子水鳥公園周辺環境美化推進区域の指定（平成26年（2014年）12月1日）を行いました。

平成18年（2006年）9月には、ごみ減量化の一層の推進、ごみ排出量に応じた費用負担の公平性・平等性の確保、ごみ処理経費に係る財源確保を目的で「米子市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の改正を行い、平成19年（2007年）4月からごみ処理の有料化を実施しています。

平成24年（2012年）3月には、自然の恵みに感謝し、ともに歩みつづけるまちとして、米子市の環境施策を長期的な視点から総合的・計画的に推進するための「第1次米子市環境基本計画（平成23年度（2011年度）～令和2年度（2020年度））」を策定（平成28年（2016年）12月中間見直し。）しました。

平成28年（2016年）7月には、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、「米子市役所地球温暖化対策実行計画（平成28年度（2016年度）～令和2年度（2020年度））」を策定し、温室効果ガス削減に取り組みました。引き続き、率先して温室効果ガス削減に取り組むため、「第2次米子市役所地球温暖化対策実行計画（令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度））」を令和3年（2021年）3月に策定します。

2-2 第1次米子市環境基本計画の総括

○第2次米子市環境基本計画の策定に当たり、本市の環境施策の現状を確認するために、第1次米子市環境基本計画の総括を行いました。なお、この総括は令和元年10月末時点のものであり、評価実施後も目標達成に向けて、引き続き、各施策の推進を図りました。

[総括]

- 第1次米子市環境基本計画における5つの基本目標の各施策の実施状況を「具体的施策及び数値目標」及び「取組実施状況」を踏まえて、総合的に評価を実施。
- 令和元年（2019年）10月末時点において、ほぼ全ての項目が令和2年度末の目標値を達成又は達成見込みであり、取組の推進が図られたが、国においては、第五次環境基本計画に掲げられた各種施策を推進しており、引き続き、本市においても一層の環境施策を推進する必要がある。

◎：達成 ○：未達成 □：取組状況等

基本目標	施策等の成果（評価）
【1】地球環境に配慮した循環型のまちづくり（地球環境の目標） 《循環》	◎市内全域から排出する二酸化炭素（CO ₂ ）の排出量（1,232千トン） 目標値（1,420千トン以下）を達成した。（平成28年度末時点）
	◎市有施設からの二酸化炭素（CO ₂ ）の排出量（18,688t） 目標値（23,365t以下）を大幅に達成した。（平成30年度末時点）
	○再生可能エネルギー導入の取組（15,345kw） 住宅用太陽光発電導入推進補助金による導入支援を行い、再生可能エネルギー導入推進に努めた。現時点において、市内の太陽光発電システムの需給電力量の目標値（16,200kw以上）に向けて順調に推移しており、令和2年度中の達成を見込んでいる。（平成30年度末時点）
	◎1人1日当たりのごみ排出量（951g） 目標値（980g以下）を大幅に達成した。（平成30年度末時点）
	○リサイクル率（17.5%） 目標値（17.7%）を下回った。新たに、小型家電リサイクルに取り組んだほか、米子市クリーンセンターから発生する主灰・飛灰のセメント原料化を行ったものの、古紙類の収集量が、流通量の減少や民間の資源引取拠点の増加により5年間でほぼ半減したことにより、全体ではリサイクル率の低下

	につながった要因と考える。 （平成 30 年度末時点） <u>◎ごみの発生量に対する最終処分率（4.7%）</u> 目標値（5.7%以下）を達成した。米子市クリーンセンターの灰溶融設備休止に伴う主灰・飛灰のセメント原料化により、ダスト固化物が減少したことにより最終処分量の減少につながっている。（平成 30 年度末時点） <u>□米子市クリーンセンターの基幹的設備改良工事の実施</u> 同工事の実施により、施設の延命化を図るとともに、米子市クリーンセンターから排出される二酸化炭素排出量を削減した。また、灰の排出設備の改造を行い、主灰・飛灰のセメント原料化を実施した。
【2】健康で安心して暮らせるまちづくり（生活環境の目標） ≪安心≫	<u>○空気のきれいさに対する満足度（86.5%）</u> 平成27年度調査（80.2%）から約6%上昇したものの、目標値（90%以上）には未達成である。 （令和元年度実施アンケート結果） <u>○大気の汚染に係る環境基準の達成</u> 光化学オキシダント以外は達成した。なお、光化学オキシダントについては、環境基準が厳しいことから全国的にも未達成の状況である。 （平成 30 年度末時点） <u>○中海の水質</u> 「中海に係る湖沼水質保全計画」の目標値を達成している範囲は広がりつつあるが、環境基準値は未達成である。赤潮の発生状況は、5年前と比べると非常に減少しており、平成30年（2018年）の発生状況はほとんどない。 （環境基準値：平成 29 年度末時点） <u>◎水洗化戸数率（89.3%）</u> 「中海に係る湖沼水質保全計画」、「米子市生活排水対策推進計画」に基づき水質浄化対策を推進し、下水道管きょ整備量の増加及び合併処理浄化槽補助制度の拡大を図り、目標値（88.8%以上）を達成した。 （平成 30 年度末時点） <u>□公害関係の苦情件数</u> 年度によってばらつきはあるが、特に、大気（野焼き）と悪臭の割合が高い傾向である。 <u>□又カカによる被害</u> 弓ヶ浜地域で問題となっている「又カカによる被害」は、調査研究を経て令和元年度に彦名地区においてモデル事業を行い、対策の検証や今後の対応

	について検討を進めている。 <u>□環境放射線の量</u> 小学校や公民館等に設置したモニタリングポストのデータ公開を実施した。
【3】豊かな自然と調和したまちづくり (自然環境の目標) 《共生》	<u>□森林の整備・保全</u> 地域の状況に応じた松くい虫防除事業を実施した。 <u>□農地の保全と活用</u> 農家の規模拡大を促進する取組として、認定農業者へ助成金を交付し、農家の規模拡大を図った。 <u>□食物の地産地消</u> 学校給食への地場農畜産物の使用に努め、魚介類、豆類の使用比率は100%である。それ以外については、納入業者にできる限り県内産を求めているが、全ての量が確保できないこともあり、全体として鳥取県内食材の使用比率は55%となっている。(令和元年10月末時点) <u>○中海の湿地環境の保全・再生と賢明な利用</u> 米子水鳥公園を活用した取組を実施しており、同公園のネイチャーセンター入館者数(20,088人)は、年々増加傾向にあるものの目標値(23,000人)は未達成である。(平成30年度末時点) <u>□生物多様性の確保の取組</u> 生物多様性の保全や重要性について、ポスターやリーフレットを小学校へ配布し啓発に努めたほか、米子水鳥公園において、貴重な動植物の保全及び環境学習を実施した。
【4】環境資源を活かしたまちづくり (快適環境の目標) 《快適》	<u>□適正な土地利用の推進</u> 米子市都市計画マスタープランに基づき、効率的で計画的な土地利用を推進しており、令和元年(2019年)6月に同計画を改定し効率的で計画的な土地利用の推進を図った。 <u>□文化財の保全と活用</u> 史跡などで保存・活用を妨げている箇所や、異常、危険箇所の把握に努め、除草や危険木の除去などの維持管理を実施した。 <u>□米子城跡</u> 市民ボランティアによる石垣除草などを実施し、景観づくりに努めた。

	<u>□危険家屋対策の推進</u> 空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するための米子市空家等対策計画を平成31年（2019年）3月に策定し推進を図った。
【5】みんなが環境を考えるまちづくり （環境意識の目標） 《協働》	<u>□環境学習の推進の取組</u> 小学生が米子水鳥公園で環境学習を行う機会を提供するため、交通費を負担する事業を実施し、年々利用校（18校／23校）が増加している。また、放課後児童クラブ、放課後デイサービス利用者、老人会等に対する環境学習を実施し、推進を図った。 <u>○環境学習</u> 米子水鳥公園を利用した市内小学生の人数（1,094人）は、年々増えているが、目標値（1,300人）には未達成である。 （平成30年度末時点） <u>□環境学習施設の整備</u> 学校の大規模改修の際に、積極的に省エネ設備の導入に努めた。また、市内小中学校全ての普通教室に省エネタイプの空調設備を整備し、学習環境の充実を図った。 <u>□環境意識の普及啓発活動</u> NPO法人、鳥取県と共催し、「中海環境フェア in よなご」を実施し、啓発活動に取り組んだ。 <u>□環境美化活動</u> 米子市環境をよくする会と連携して、市内一斉清掃を年2回（春・秋）継続して実施しており、市民に定着してきている。また、周辺自治体と連携し、環境保全活動として「ラムサール条約登録湿地中海・宍道湖一斉清掃」を継続して実施しており、毎回約1,000人の参加者で清掃活動を行った。

2-3：米子市の環境に関する 市民アンケート調査の結果

○本計画の策定に当たり、環境に対する市民意識や家庭における省エネの取組状況等の変化を把握することを目的に市民アンケートを実施しました。

(1) アンケート調査概要

アンケートの実施概要は以下のとおりです。アンケートの対象者は市民と事業所に分けて実施しました。

	市民編	事業所編
調査期間	令和元年（2019年）11月6日～11月25日	
調査対象	米子市内居住の20歳以上の方から無作為に抽出	米子市内の企業から無作為に抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収	
配布数	3,000人	500社
回収数(回収率)	1,161人(38.7%)	165社(33.0%)

(2) アンケート結果

アンケート結果の主な内容は、以下のとおりです。地球温暖化のような世界規模のものから、ごみ捨てマナーのように私達の生活の身近な問題に至るものまで、広範囲に渡る様々な事柄に関心が示されていることが分かりました。

①多くの市民が「地球温暖化」について、問題意識を持っている。

- 地球温暖化対策について、市民は9割程度、事業所は7割程度が必要であると回答しており、多くが問題意識を持っていることが分かる。一方で、39歳以下の若年層においては、他年齢層に比べ問題意識が低く、特に29歳以下の年齢層においては全体平均に比べ、2割程度低い結果となっている。
- 自由記述において、市民及び事業所ともに、地球温暖化に関する記述（市民編：33件、事業所編：9件）が多く関心の高さが伺える。

②循環型社会の構築に行政の役割が望まれている。

- 行政に求める施策として、市民、事業所ともにリサイクルの推進や廃棄物の適正処理等、循環型社会の構築に関連する事項が、平成27年度（2015年度）実施アンケートと同様に上位に位置しており、引き続き、行政の役割が望まれているものと考えられる。特に事業所においては、行政に求める施策の最上位に位置している。
- 市民の自由記述における回答では、ごみを適切に処分してほしい（「野焼きについて（8件）」、「ごみの処分について（7件）」、「不法投棄について（6件）」）との意見が多く、ごみ処理のマナーが問われていると考える。

③緑、野鳥、昆虫とのふれあいについて市民は高い満足度を持っている。一方、耕作放棄地を懸念する声がある。

- 「身近な周辺環境について」の問に対する回答で、「(1) 緑とのふれあいの場」や「(2) 野鳥や昆虫とのふれあいの場」に対する満足度が高かった。特に、(2) については、米子水鳥公園が立地する彦名地区を含む周辺地区の住民の満足度が他地区の住民より高く、施設整備による効果があるものと推測される。
- 市民の自由記述における回答では、農地の適正管理を必要とする意見が多く（「耕作放棄地が多い（8件）」）、高齢化等により管理されない土地が増えてきているのではないかと推測される。

④公害対策に行政の役割が望まれている。一方、個人のごみ捨てマナーや土地の管理を懸念する声がある。

- 行政に求める施策として、市民、事業所ともに公害対策が、平成27年度（2015年度）実施アンケートと同様に上位に位置しており、引き続き、行政の役割が望まれているものと考えられる。
- 街の美化について、市民は、ごみ出し・ポイ捨てなどのマナーに関して、全年齢、全地域において最も改善したい事項となっており、関心の高さが伺える。
- 自由記述における回答では、市民及び事業所ともに空家・土地等を起因として繁茂する草木を伐採してほしいとの意見が多く（市民編30件、事業所編5件）、③自然共生社会で農地の適正管理を求めるとした記述と同様、高齢化等により管理されない土地等が増えているのではないかと推測される。

⑤多くの市民が、環境保全活動の参加に意欲的である。

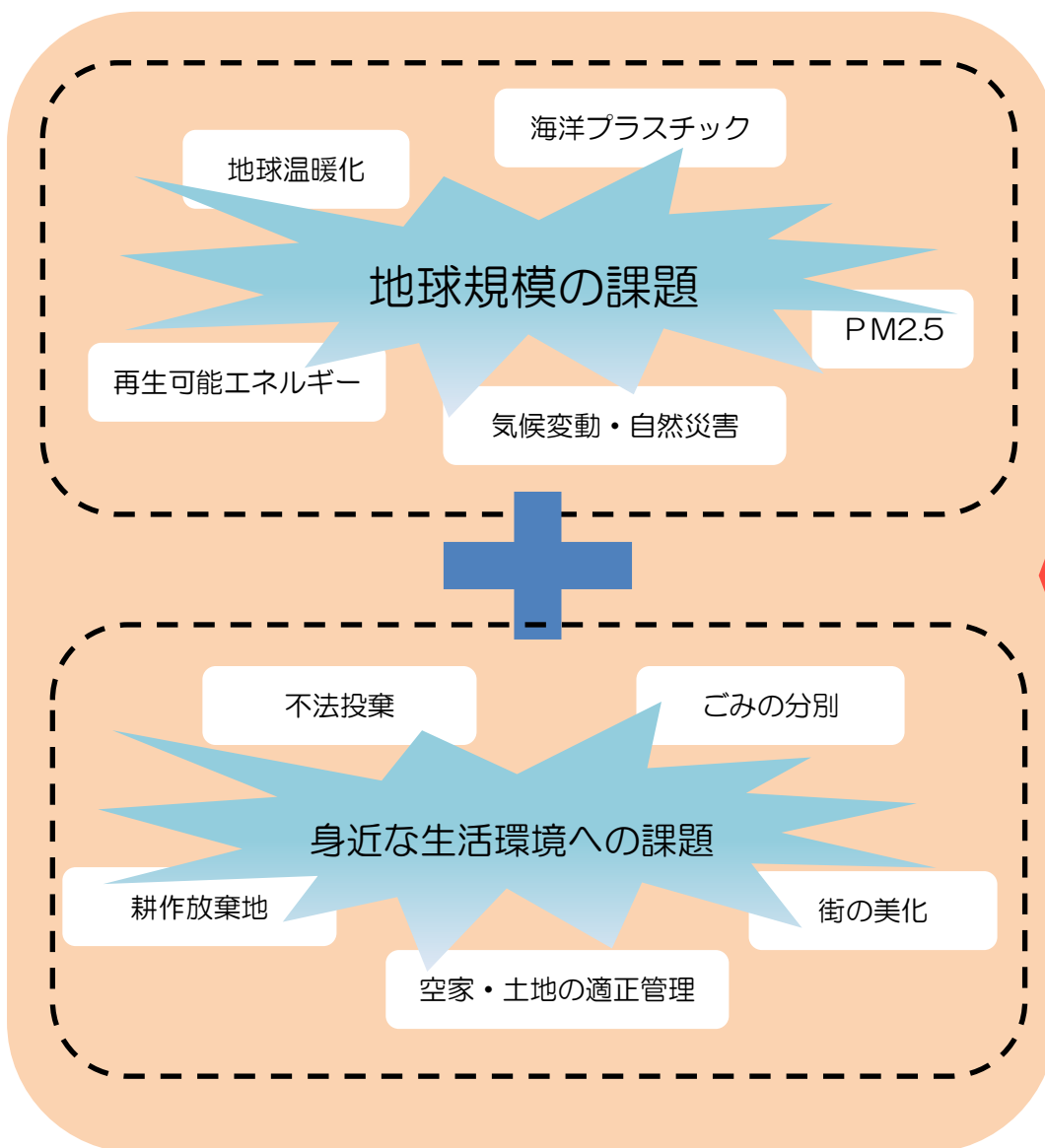
- 6割程度の市民が環境保全活動に参加したいと回答しており、市民の環境保全活動に対する参加意欲が高いことが分かる。
- 市民の自由記述における回答では、「1人1人の環境問題への意識が大切（16件）」という意見が多く、個人の意識を高めることが必要であると考え市民が多いことが分かる。

2-4：米子市の環境課題

○市民アンケートの結果を考察すると、私たちの環境を取り巻く課題として、地球温暖化問題が最優先課題であるというような地球規模のものがある一方、空家・土地等の適正管理といった身の回りの地域の生活環境の改善を望む声、ごみ出し・ポイ捨てなどのマナーを改善すべきであるとする個々人に関するもの等がありました。また、環境保全活動に参加したいとの積極的な意見も見受けられ、その内容は、多種多様で広範囲に及んでいます。

〔私たちを取り巻く環境課題〕

環境保全活動への参加



～元気に遊ぶ子どもたち～

